

社団法人京都府森と緑の公社第6回経営検討委員会の開催結果

- 1 開催日時
平成24年9月12日（水曜日） 午前10時00分から11時30分まで
- 2 場所
京都ガーデンパレス 「祇園」
- 3 出席者
【委員】田中座長、中野委員、樫崎委員、野澤委員、長谷川委員、松下委員
(五十音順)
- 4 議事
(1) 報告事項
・ 第5回経営検討委員会の概要について
(2) 協議事項
社団法人京都府森と緑の公社経営検討委員会 とりまとめ素案について

主な意見

- ・ 分収造林の制度は、国策として進められてきたが、制度設計が古いものとなっており、現状に合わなくなってきている。借入金の任意繰上償還が出来ないこと自体、制度が成り立たなくなっている証しだと考える。借入金を前提に事業を行うことには無理がある事を明確にしておく必要がある。
- ・ 本委員会ではそれぞれの案の長所や短所をきっちり列記して、考えられるシナリオを提示することとしたい。
- ・ 「委員会とりまとめ」は、最終的に府の負担額がいくらになるのか、過去に府が投入してきた金額もあわせ、記載すべきである。
- ・ 収支見通しについては、木材価格により評価が変わるので、需要と供給のバランスを考えると今後現状よりも下がる可能性があるということを、記載した方が良い。
- ・ 今後の主伐や保育の経費については、地元の森林組合等が作業にあたる事が予想されるので、経費はかかるが地域の労働力を使うということで、地域振興につながる旨の記載をしてはどうか。
- ・ 経費には、直接部門（事業実施に直接かかる費用）と間接部門（負債、生活費等）があるが、次のステップとして直接経費を本気で圧縮（減少）させる必要がある。森林所有者との契約の解除や契約変更にも本気で取り組まないと、誰が経営しても同じ事になってしまう。
- ・ 相続等により所有者が判らない事業地がある等、少子高齢化の時代に森林整備等は誰が担っていくのか、森林事業者の現状の記載がない。また京都府の府内産木材の利用促進の取り組み等の内容も記載した方が良い。
- ・ 不採算林は環境林（針広混交林）化とあるが、公社設立の背景の中に「広葉樹から針葉樹林への変換を図る」となっている。このあたりの整合や意味を説明しておく必要があるのでは。
- ・ 見出しとして「山村住民の財産の造成」となっているが、当時は目指してきたが、結果としてそうならなかったという内容とすべきである。

- 2009年のリーマンショックもかなりインパクトが大きかったので入れておくべきである。
- 管理に多くの労力を要しない針広混交林と記載があるが、その他防災の観点も入れた方が良くはないか。
- 伐採後の植栽の問題が難しいことを記載しておくべきである。
- 府の方針として、府内産木材の利用拡大等、経営改善の努力は重要なので記載する必要がある。例えば、低コストの搬出間伐等について公社が期待されているというような記述が必要である。
- 雇用だけでなく、技術の継承、技術開発など、公社は地域に波及するモデル的な山である等、明るい話題についても記載すると良い。
- 「おわりに」において、ビジョンを示す意味で、経営改善、伐出の見直し、木材の地産地消、林業大学校、ウッドマイレージ、モデルフォレスト運動など、府の取り組みも踏まえてビジョンの所の文言を肉付けすれば良い。